

令和2年度

川崎市立中学校
学習状況調査
報告書

川崎市教育委員会・川崎市立中学校長会

はじめに

川崎市教育委員会
教育長 小田嶋 満

今年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、5月まで臨時休業となり、6月から学校が再開されたものの、制限の多い教育活動にせざるを得ない状況となりました。このような大変厳しい中で本調査が実施され、明らかとなった子どもの学習状況は、大変重要な資料であると考えております。

令和3年度から全面実施となる新学習指導要領では、「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の3つの資質・能力をバランスよく育成し、子どもたちが未来社会を切り拓くための「生きる力」を育成することが求められております。そのために、“よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創る”という目標を、学校と社会が共有し連携・協働しながら、これからの時代に求められる資質・能力を子どもたちに身に付けてもらう「社会に開かれた教育課程」を実現することが必要になります。各学校では、育成を目指す資質・能力を明らかにし、学習状況や学習指導上の課題を把握しながら、指導の改善につなげていくことが求められています。

さて、新型コロナウイルス感染症拡大を受けて、文部科学省では「GIGA スクール構想」の実現に向けた環境整備を加速することで、災害や感染症の発生等による学校の臨時休業等の緊急時においても、ICTの活用により全ての子どもたちの学びを保障できる環境を早急に実現することを目指しています。本市においては、「かわさき GIGA スクール構想～未来社会の創り手を育むかわさきの新しい教育～」を掲げて取組を進めております。1人1台の端末と高速ネットワークを整備することで、子どもたちの学びは劇的に変わります。これまでに積み上げてきた教育実践と最先端ICTのベストミックスを図ることで、子どもたちの力を最大限に引き出せるように、全校で取り組んでいただく必要があると考えております。

各学校では、子どもたちの学習状況を的確に把握・分析し、学校教育目標に沿った生きる力を育むにあたり、「どのように指導の改善・充実を図っていくのか」について考えるため、本報告書を積極的に活用していただきたいと思っております。併せて、「GIGA スクール構想」を視野に入れながら、学習指導要領に示された育成を目指す資質・能力を確実に身に付けていくため、「主体的・対話的で深い学び」の視点から授業改善を図っていただくことを期待しております。本調査により明らかになった学習状況を踏まえ、学校全体でカリキュラム・マネジメントの推進や教育課程全体の改善、更にはICTの活用を含めた指導の改善に活かしていただければ幸いです。

結びに、川崎市学習状況調査の運営・実施に当たって御尽力くださいました「中学校学習状況調査研究会議」をはじめとする川崎市立中学校長会の皆様に、厚くお礼申し上げます。

令和2年度「川崎市立中学校学習診断テスト」のまとめにあたって

川崎市立中学校長会
会長 相沢 宏明

来年度からの新しい学習指導要領の全面実施に向け、今年度は移行期間の最終年度となりました。各学校においては、社会に開かれた教育課程の理念のもと、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善や指導と評価の一体化のための学習評価を見据え、各学校の特色を生かしたカリキュラム・マネジメントの確立等にご尽力いただいているところと存じます。

この川崎市立中学校学習診断テストは、昭和43年度から校長会の事業として市内の全中学生を対象に始まり、今年度は53回目の実施となりました。平成17年度からは、「かわさき教育プラン」に則り「川崎市立中学校学習状況調査」として実施され、2年生については「生活や学習についてのアンケート」も併せて実施しております。今年度は新型コロナウイルス感染症拡大という困難な状況下にもかかわらず、本調査を継続して実施いただきましたことに感謝申し上げます。

各教科（国語・社会・数学・理科・英語）の調査につきましては、学習指導要領に示されている目標及び内容の「基礎的・基本的な知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」についての学習がいかに生徒に定着しているかについて、各学年同一問題によって実施しています。そして、その結果を診断し、今後の学習指導の改善に役立たせるとともに、生徒自らが学習状況や学習課題の把握ができるようにすることを目的としています。このような趣旨に基づき、本報告書では各設問について分析・考察し、今後の授業改善の手立て等についてまとめております。また昨年度から、各教科統一した形式の「経年観察およびその考察」のページを設けて、同類の出題に対しての正答率の経年変化を分析し、資質・能力の育成のための課題等を明確にしています。

各学校におかれましては、生徒一人一人の学習についての意識等を的確に把握し、教育課程の編成や指導方法の改善を図るとともに、生徒の学習に取り組む態度や家庭での学習の在り方の改善に向けた基礎資料として本報告書を役立てていただければと存じます。

最後になりますが、学習診断テストの実施に際しまして、ご尽力いただきました、川崎市教育委員会、校長会現職教育委員会及び教育研究会の各教科部会、教頭会の皆様に心より感謝申し上げます。

目次

I 調査の概要

1. 調査の目的	5
2. 調査の内容	5
3. 調査の対象	5
4. 調査実施日及び調査対象教科・人数	5
(1) 調査実施日	5
(2) 調査対象教科・人数	5

II 調査結果の概要

1. 国語	9
誤答分析と学習指導上の考察	1 2
2. 社会	3 1
誤答分析と学習指導上の考察	3 4
3. 数学	5 1
誤答分析と学習指導上の考察	5 4
4. 理科	6 9
誤答分析と学習指導上の考察	7 2
5. 英語	8 7
誤答分析と学習指導上の考察	9 0

III 生活や学習についてのアンケート

調査の概要	1 0 7
調査結果と分析	1 0 9
単純集計	1 0 9
クロス集計	1 2 8
各教科の正答率との相関	1 3 7
資料 調査結果集計表	1 4 1

IV 問題用紙・解答用紙・アンケート質問紙

国語	1 5 6
社会	1 8 2
数学	2 2 8
理科	2 4 6
英語	2 9 6
生活や学習についてのアンケート	3 2 8

I 調査の概要

1. 調査の目的

学習指導要領に示されている各教科（国語・社会・数学・理科・英語）の目標および内容の「基礎的・基本的な知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」について学習したものが、いかに生徒に定着しているかを全市一斉に学年ごとの同一の問題によって調査する。そして、その結果を診断し、今後の学習指導の改善に役立たせる。また、生徒自らが学習状況や学習課題の把握ができるようにする。

2. 調査の内容

○ 国語・社会・数学・理科・英語

調査の目的に基づき、学習指導要領に示されている各教科の目標及び内容の基礎的・基本的な事項について、各教科の出題範囲に基づいて、全学年を対象とする調査を実施した。

○ 学習意識調査（生活や学習についてのアンケート）

生徒の生活や学習に対する意識等について明らかにするために、第2学年の生徒を対象とする調査を実施した。

3. 調査の対象

市内全市立中学校の全学年の生徒

4. 調査実施日及び調査対象教科・人数

(1) 調査実施日 令和2年11月10日（火）

(2) 調査対象教科・人数

中学校 第1学年	10,158人
中学校 第2学年	9,899人
中学校 第1学年	9,627人

Ⅱ 調査結果の概要

